

1 校訓（開校時から受け継いできた教育文化）

「力いっぱいがんばる子」

- ・ 自ら学ぶ子（知）…豊かな感性と表現力を持ち、自ら問題を見つけ、解決できる子
- ・ 思いやる子（徳）…相手の気持ちが分かり、思いやりのある子
- ・ たくましい子（体）…心身をきたえ、忍耐と努力によって最後までやりぬく子

2 教育目標

「気づき 考え 行動する子を育てる」

変化する社会に対応し、自分の生き方を考え、行動するための資質や能力を備えた子どもの育成

3 本校の経営方針

私たちの社会は、より多様性・持続性を尊重するよう変化し続けており、予想を上回るスピードで進む人口減少や生成AIに代表される技術革新も相まって、ますます「先の見えない時代」となっている。これからの時代を生きる子どもたちには、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることが求められている。今後も、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進に継続して取り組み、子どもたちが、自ら課題を見つけ（気づき）、課題を解決しようと追究し（考え）、試行・実行していく（行動する）姿勢を育みたい。

また、コロナ禍を期に「人とのふれあい」「体験学習、集団での活動」等が減ったことやGIGAスクール構想が進んだことで、「直接性」「活気」が薄れがちである。そのため、時流に合った教育活動（行事のスリム化やGIGAスクール構想等）とのバランスを取りながらも、「人とのふれあい」や「学校でないとできない体験（集団での活動等）」などを大切に、活気のある学校を目指していきたい。

昨年度、活気のある学校環境を目指し、開校50周年に向けた学校スローガン「本いっぱい、花いっぱい、歌いっぱいの学校」を掲げて取り組みを始めた。持続可能な形で本年度も継続して成果を積み上げ、教育活動に活かしていきたい。



4 本年度の重点努力目標

(1) 自ら学ぶ子

- ・ 学びの基盤となる基礎的な学力の定着を図る。
- ・ 本校が取り組んできた教育目標「気づき考え行動する子」のもと、総合的な学習の時間・生活科と各教科等の横断的に組み合わせ、楽しさや成就感を味わえる問題解決的な学習活動を通して、自主的に追究する力を育成する。
- ・ これまで推進してきたESD（持続可能な開発のための教育）を学校文化としての定着を図るため、ユネスコスクールへの加盟申請し、よりSDGsを意識した取り組み（カリキュラムマネジメント等）を進める。

(2) 思いやる子

- ・一人一人を大切にしてい個人に寄り添そうとともに、温かい学級・学年集団づくりを心がける。
- ・よりよい学校生活のため、校内外のボランティア活動等に取り組もうとする意識を醸成する。

(3) たくましい子

- ・体を動かすことを楽しみ、友だちと協力しながら、体力向上を目指す姿勢を育てる。
- ・食や健康に関心を持ち、心身ともに健やかに生活する姿勢を育む。

(4) 地域とともにある学校

- ・コミュニティー・スクールとして、「衣とも本部（地域学校協働本部）」の活動をより充実させ、地域や保護者といっそうの連携を図る。
- ・SDGs ボランティア等、市民館と連携して、子どもたちが、地域の活動に参加していけるような働きかけをする。

(5) 環境整備

- ・「本いっぱい、花いっぱい、歌いっぱいの学校」を意識して学校環境を整備する。
 - 本いっぱい…学校図書館の充実（学習・情報センター機能、英語絵本、マンガ等）、ふるさと学習資料の収集
 - 花いっぱい…バタフライガーデン等、生き物を観察しやすい花壇の整備。プランターを活用して、花のある環境整備を進める。
 - 歌いっぱい…児童委員会活動を中心に、歌声集会など歌声が響く学校にする。学校行事に歌声を取り入れる。
- ・ESD（持続可能な開発のための教育）の視点に立った環境整備を今後も進める。
 - 各学年の生活・総合的な学習の時間のテーマに沿った展示・掲示
- ・地震避難所として機能するよう整備していく。
 - 防災対策本部や避難所設置を意識した整備
- ・子どもたちの生活環境や教職員の職場環境がよりよくなるよう整備を進める。
 - 子どもたちの学習成果物及び学習に関連する掲示物を積極的に常設展示する。

5 教員研修・働き方改革

- (1) 年齢構成の変化やコロナ禍で途切れた学校文化の再生等に対応するため、OJT を意識して研修に取り組む。
- (2) 校務分掌については、適材適所と教員のキャリア形成を意識した配置となるように努める。
- (3) 研究指定をよい機会として捉え、自ら単元を作る楽しさを感じながら、授業力の向上を図る。
- (4) 授業時数確保を前提に、授業準備や会議・研修の時間を十分に取れるよう年間計画を立てて進める。
- (5) 子ども・家庭・教職員のウェルビーイング（持続的な良い状態）を意識しながら、休暇を取得する際に互いに補完し合う雰囲気を醸成し、働き方改革を推進していく。